

今はまだ存在しない職業に就く

東京都立晴海総合高等学校 キャリアカウンセラー

千葉吉裕

2011年8月7日のニューヨークタイムズ紙でキャシー・デビッドソン教授(デューク大学シジョン・ホープ・フランクリン人文科学研究所)が語ったインタビューは、巷で話題になっています。「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%が、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう」という予測です。

これからの約15年にたくさんのお職業が出現し、これまでの職業は淘汰されたり、新興国へ移転されたりすることによって、現存する職業に就く人は激減することになるだろうという予測です。

今から15年前の1990年代後半を思い出してみると、その頃話題になっていたのが、インターネット、携帯電話、PHS、プリクラ、犬型ロボットAIBO、MDプレーヤー、家庭用ゲーム機などでした。15年経った現在、PHSやMDプレーヤーの利用者数は激減、インターネットや携帯電話は、活用の範囲を飛躍的に広げました。これからの15年間で起こることは、さらに加速した変化が繰り返られることではないでしょうか。

学校では子どもたちに自分の将来の生き方や生活について夢や希望を持たせ、その夢や希望を実現するために進路計画を立てさせることがあります。将来設計という項目です。これだけ大きな変化が予測されてしまうと、目標を立てて、それを実現させるために、何かを準備し続けることは端から無理とつぶやいてしまいます。

では、子どもたちに、夢や希望を持たせることは無意味なのでしょうか。いいえ、決してそうではありません。目標なしに鍛錬することは難しく、成長するために目標設定は大切です。目標を設け実現に向け努力し、能力を高めていきます。ただし、能力を活かす場は、夢見たフィールドとは限りません。能力を他へ転用することはできません。能力を工夫すればよいのです。また、目標に向けて進路情報を収集することによって、新たな希望に出会うことと違ってあります。暫定的な目標として、将来目標を立てさせることは重要だと思います。

では、どのような能力を身につければよいのでしょうか。その答えは、平成23年1月31日に文部科学省より公表された「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(中央教育審議会答申)の中に書かれてあります。その答申では、分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる「基礎的・汎用的能力」を明確化し、学校教育の中で、意識的に育成していくことを求めているのです。

専門的な知識や技能が非常に速いスピードで陳腐化する今日、その変化に素早く対処できるしなやかさは欠かせません。「基礎的・汎用的能力」は、変化の激しい社会の中で、しなやかに対応するための基本となる能力です。具体的には、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」二課題

対応能力「キャリアプランニング能力」の四つの能力です。これらの能力を工夫された教育を通じて達成することを期待しています。

いつの時代も未来を予測することは困難を極めました。何が生き残り、何が消滅し、何が出現するのか、正確に言い当てられる人はいないでしょう。そのような時代に、絶滅しない方法は、ダイバーシティ、多様性しかありません。それは地球上の生物の40億年の変遷が物語っています。地表温度が変わったり、大気成分が変わったりしても、新しい環境に適応する生物が現れ、進化し、その生物の出現で環境が変わり、また、新たな生物が出現、繁栄するということを繰り返してきました。生命が絶えることなく、つながり続けたのは、生物種が均一ではなかったからです。個性重視が強く求められるのはそのような理由からです。

子どもたち一人ひとりが個に応じた専門的知識、技能を備え、多様な集団になることが、激変する社会を生き抜く唯一の対策です。その個性化を図るうえで、能力育成が、「基礎的・汎用的能力」なのです。

自己の個性理解に努め(自己理解・自己管理能力)、計画的に個性を伸ばし(キャリアプランニング能力)、状況把握をし(課題対応能力)、集団の中で自己を活かしていく(人間関係形成・社会形成能力)。予測不能な時代に生き残るために、これら能力育成をめざすキャリア教育をより一層推進、充実させてほしいと願っています。